

Philippine Summer Camp 2013

reported by FIWC kyushu



Place: Matag-ob, Leyte, Philippines
Time: 8/30th~9/19th (for 21days)

FIWC九州
kyushu

1. はじめに
2. FIWC とは
3. 重要人物
4. 活動日程
5. Survey について
6. カラヒについて
7. 2014 年ワーク内容

～
も
く
じ
～



8. ワーク地決定経緯

9. その他の調査地

10. Evaluation

11. 生活状況

2 12. 各係報告

13. 他已紹介



1、はじめに

昨年のサンドニシオでのキャンプは「Most peaceful」だった。村人と一緒に働いて、歌って踊ってお酒飲んで、本当に楽しい毎日だった。日本に帰ってきてからもフィリピンでのことを思い返す毎日。そんな前回のキャンプを超えるようなキャンプを作りたいと、メンバーが集まり新メンバーも加わって、私たちのキャンプが始まった。

フィリピンに行く前に私たちが大事にしようと思ったことは、村人、フィリピン人のこと考えることだ。そこで、フィリピンの人たちを第一に考えて、「メリットの幅」「将来性」を方向性に「結実」というテーマを掲げた。多くの人に影響を与えたい、長期的に維持できるようなワークをしたい、ワーク後村に良い変化をもたらしたい、今回の活動が、村が自分たちで問題を解決していく起爆剤になれば、などの気持ちを込めて。

私たちの活動が
いつか実を結び花を咲かせて
村に幸せが訪れるような
そんなキャンプを目指して



2013年フィリピンキャンプリーダー 工藤星授

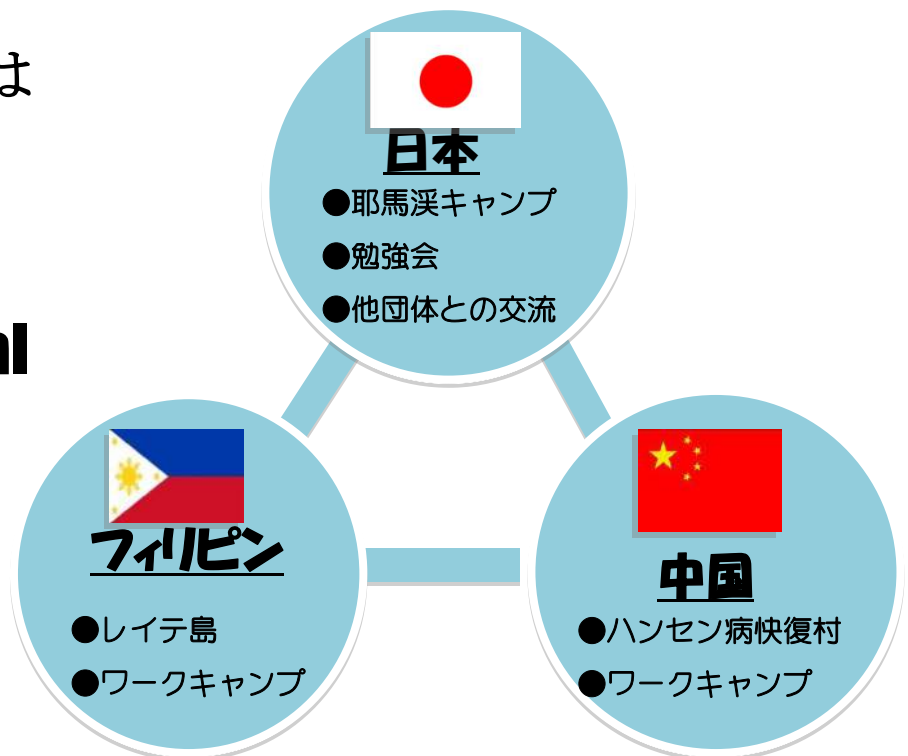
0 2. FIWCとは

Friends

International

Work

Camp



FIWC は九州（主に福岡）の大学生が主体となり学生のみで国内外で国際協力を行っている学生 NGO 団体です。

<国際活動>

●中国キャンプ

ハンセン病快復村へ行き、村人のケアやインフラ整備を中国の大学生と行う。

●フィリピンキャンプ

フィリピンレイテ島の貧困村を訪れインフラ整備を村人と共に行いながら交流を図る。

<国内活動>

●耶馬溪キャンプ

年3回大分県の耶馬溪で農業体験を行っている。

●FP (FIWC Party)

月1回第4土曜日に「びおとーぷ」で行っているワークショップ形式の勉強会。

他にも自由な発想で自由な活動を行っている柔軟さがFIWC九州の特徴です。また、FIWCは九州の他、関東、関西、東海、広島に支部があり、互いに情報交換を行いながらそれぞれが自立した活動を行っています。

☆キャンプメンバーだけでなく国内活動にも一緒に参加してくれる大学生を

募集中！！

3. 重要人物



現地エンジニア：ロクロクさん

1999年からFIWC 関東のキャンプに参加して下さっている現地のエンジニア。FIWC 九州発足後は九州のプロジェクトのみに関わらずキャンプを様々な面からサポートして下さっている。今回の下見も survey の日は毎日、それ以外の日も私たちと一緒にキャンプの事を考えてくれたり、言語の面でサポートして下さったりと、本当私たちフィリピンキャンプにとってかけがえのない存在である。いつも明るく、私たちを笑わせてくれるが、病気を患っており心配だ。



カンソソ村の村長：セディン

今回のキャンプ地のカンソソ村の村長。カンソソに滞在中は毎日ごはんを作っていた。いつも目が見えないほど目を細めて、後ろの方から微笑んでいる優しいお母さん。しかし真剣な話になると、目が普通のサイズになって少し怖い。(笑)



サンドニシオ村の村長：アルセニオ

前回のキャンプ地サンドニシオ村の村長。今回サンドニシオに滞在中は大変お世話になった。私たち FIWC のことをとても考えてくれており、今回の滞在を快く受け入れてくれたり、ディスコの最中は私たちのことを見守ってくれたり、とても優しいおじさんである。



ダディー・ドドン&マミーサニー

2009年のワーク時にお世話になり、それ以降も私たちの活動に協力して下さる元マタグオブ副市長夫婦。今回は主に二人の家にステイさせてもらった。ダディーはお酒大好き、マミー大好きなおちゃめなお父さん。マミーは、大好きと言ってくるダディーをクールにスルーし、私たちのために毎日おいしいご飯を作ってくれた優しいお母さんである。

NorWeLeDePAI (NorthWestern Leyte Development Parent's Association Inc.)



FIWC九州と2004年から連携体制をとっている現地のNGO団体。オルモックから車で15分ほど離れたルナ村にオフィスがある。FIWC関東とも協力しており、フィリピンでワークキャンプをする私達にとっては重要な存在である。この団体は、レイテ島北西部の村々で子供たちの両親が中心となってコミュニティの発展を目指す活動を行っており、世界的なNGOであるWorld Visionのドイツ支部から資金援助を受けている。今回はパスポート・貴重品の管理に加え、マタグオブ市内のカバーエリアを教えていただいた。

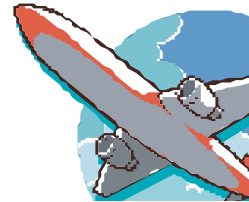
※ロクロクさんの体調について

ロクロクさんは以前から病気を患っており、今回の下見中も頭痛がしたり体力的にすぐに疲れたりと、大変きつそうだった。手術をするように勧められているが、ロクロクさんは手術を受けない方向で考えている。毎日朝晩一錠ずつ薬を服用しなければならないのだが、薬は1日約120ペソと大変高価な為、毎日二錠の服用は金銭的に厳しいときもあり、自分の村の村長から借金をしている。今回事前に寄付金を募ったところ合計4万6千円集まり、そのうち3万円をロクロクさんに渡してきた。残りの寄付金は、次回の本キャンプで渡す予定。今回の寄付金により、村長からの借金は期間以内に返済できた。寄付に協力して下さった方々に大変感謝しております。ありがとうございました。また、ロクロクさんがこのような状態のため新しいエンジニア探しが必要である。しかし、新しいエンジニアの人が責任を持って手伝ってくれるか？私たちFIWCのことをきちんと理解してくれるか？など、人選びには慎重さが重要であり、日本人の学生が現地のエンジニアを探すことは非常に難しく、現在のエンジニアであるロクロクさんに後続のエンジニアを探してもらっている状態である。

4. 活動日程

MTG スケジュール

- 6/12 第1回 MTG@びおとーぷ
6/18 第2回 MTG@あすみん
6/24 第3回 MTG@あすみん
7/4 第4回 MTG@あすみん
7/10 第5回 MTG@あすみん
7/18 第6回 MTG@あすみん
8/8.9 国内合宿@今宿野外活動センター
8/30~9/19 下見キャンプ
9/23 帰国後 MTG@星授の家
10/26 キャンプ報告会@びおとーぷ



キャンプ日程

- 8/30 16:45 発福岡空港→仁川空港→0:05 着セブ空港
セブ島で一泊(シランガンホテル)
8/31 5:30 発セブ港→着オルモック港(レイテ島)
前回ワーク地サンドニシオ村滞在 ディスコ (2泊3日)
9/1 前回ワーク地の evaluation ★
9/2 表敬訪問*、ノルエェルで MTG ダディドドン、マミーサニー宅宿泊開始 ★
9/3 カンソソ村 survey ★☆
9/4 マンサハオン村 survey ★☆
9/5 サントロサリオ村 survey★☆
9/6~8 サンドニシオ村滞在(2泊3日)
休息、ディスコ
9/8 再 evaluation、ダディドドン、マミーサニー宅宿泊開始
9/9 サンタローサ村、カンデラリア村、マンサリップ村 survey ★☆
9/10 ナオライアン村、サンマルセリーノ村、サンビセンテ村 survey ★☆
9/11 サンセバスチャン村、リバーサイド村 survey ★☆
9/12 キャンプ地決定 MTG
9/13 キャンプ地決定 MTG、



- カンソソ村へワーク地決定の報告★
- 9/14 カンソソ村滞在(4泊5日)、GAM* ☆
- 9/15 ミニ Japanese Festival
- 9/16 ムニシパルで MTG(せーじゅ、隼也)、
他の村への謝罪(せーじゅ、隼也、みさき)★
- 9/17 サンドニシオ村へお別れの挨拶へ、
ムニシパルで MTG(せーじゅ、隼也)
カンソソ村役員と MTG、
ミニ farewell party ★
- 9/18 村出発、警察署、ノルウェル訪問
オルモック→セブ島へ移動、
SM で買い物
- 9/19 1:35 発セブ空港→仁川空港→15:35 着福岡空港
無事帰国！



*表敬訪問：マタグオブ市の市役所を訪問し、市長、役員
に挨拶をして、警察署にパスポートのコピーを渡す

*GAM(General Assembly Meeting)：通称ジェネアセ。村人を集めて FIWC、ワークにつ
いて説明し、理解を得るための集会。

★：ロクロクさんが FI に協力してくれた日
☆：ダディドドンが FI に協力してくれた日



5. Survey(調査)について

今回のメンバーは全員下見が初めてであったため、どのように survey をするべきか常にロクロクさんと話し合いをした。その中で途中変更もあった。



Survey の流れは以下の通りである。

- ① 前日に村に連絡をし、翌日カピタン・カガワット(村役員)全員と meeting
- ② 村を3つ回った後で survey を変更
- ③ New survey
- ④ Resurvey
- ⑤ 謝罪

①	<p>過去にカピタン(村長)・カガワットたちの中で意思疎通がとれておらず、survey した際にカピタン・カガワットの意見が統一されていなかったという問題があった。そのため村に事前に連絡を入れることで、その村の一番の問題が何かカピタン・カガワットたちが話し合いでき、私たちとの meeting がスムーズにでき、その問題について詳しい情報を得ることができる。</p>
②	<p>カンソソ・マンサハオン・サントロサリオの3つの村を survey した後で、ロクロクさんから「今のままの survey をしていくと(1つ1つの村に FIWC が自分たちの村でワークをするのではないかという)大きな期待をさせてしまうから survey の方法を変更するべきだ」という提案があった。実際 survey を試みてカピタン・カガワットほぼ全員と meeting をする形になり、その中でワークの詳細や予算の決定をしていった。ワーク地決定後に行うような内容の meeting と感じた。</p> <p>下見キャンパーだけで meeting をしたところ、カピタン・カガワットたちの中で意思疎通がとれず、得られる情報に差異が生じ、ワーク地決定に支障がでるのではという意見もあったが、それよりバランガイの役員や村人に大きな期待をさせてしまうほうが問題であるという理由でロクロクさんの提案に賛成した。</p>
③	<p>事前に連絡を入れるのをやめ、いきなり村を訪ねその場にいるカピタンやカガワットに質問をし、情報を入手することによって期待を最小限に抑えられる。</p> <p>→実際に survey 試みて、meeting をしたのはカピタン・カガワットのうち1名~3名だった。また時間の短縮にもなりより多くの村を survey できた。</p>

④	村を決定する前にいくつかの村に絞り、もう一度詳しく survey することで村人のことを考え、よりの確に村を決定することができる。
⑤	村を決定した後で、Survey した村に謝罪をする。

☆Survey で分かったこと

・来年度の予算が 8 月に組まれること

→私たちが survey したのは 9 月だったため、すでに来年度の予算を組んでしまっている村が大多数で、それらの村は本キャンプのワークの予算を出すことが厳しいと言われた。

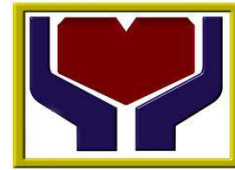
・ウォーターシステムについて

→各家に水を分配するようなワークをする場合は各家に水量の格差が生じてしまうため、そこから新たな問題が生まれてしまう。そのため各家に水を分配するようなワークはしないほうがいいという結論に至った(ウォーターシステムが存在しない村のワークは別)。



6. カラヒについて

カラヒ(KALAHI)とは、貧困な村などにインフラ整備などの形を取って援助を行う社会福祉のプロジェクトである。内容は我々がこのフィリピンキャンプでしている活動と似ているが、カラヒの主な資金源は国からによるものなので、規模がかなり大きい。



カラヒについて今回までのキャンプで分かったことは次のとおりである。

- ・ カラヒによる援助が決まった村では、GAM (General Assembling Meeting) が行われるのだが、それに村の人口の80%以上の人が出席しないとカラヒが下りなくなる。
- ・ カラヒが下りることが決まった村は、次の年のインフラのための予算をすべてカラヒにあてなければならない。

現在、FIWC 九州のフィリピンキャンプで活動の拠点としているレイテ島のマタグオブ市でもこのカラヒによる援助が進められており、具体的な村を挙げると、現在マサバ村で Road Concreting (道の舗装) が始まっている。これが終わり次第、前回のキャンプ地、サンドニシオ村でも Road Concreting が行われる。また、マサバ村の前にマラサルテ村でもカラヒの援助が行われていた。そこでは以前 FIWC 九州が作った水道タンクがあったのだが、諸事情で壊れていた。しかしカラヒの資金がマラサルテ村に下りたことにより、その資金でタンクを直すことが出来た。

このように、カラヒのプロジェクトによりマタグオブ市の村々はどんどんインフラが整備され、その村全体も活性化しつつある。それと同時に、FIWC 九州がマタグオブ市で可能なワークというのも限られてきているのも事実である。そのような理由からも、来年以降新しい市に拠点を移す、広げるといった判断を取らなければならないのかもしれない。

7. 2014 年ワーク内容

○概要●

場所 : フィリピン共和国レイテ島マタグオブ市カンソソ村

内容 : Construction Of Concrete Footbridge(歩行者用の橋の建設)

期間 : 約 3 週間

【費用】

村	0P(0 円)
市	100000P(約 23 万円)
FIWC	100000P(約 23 万円)
合計	200000P(約 46 万円)

※エンジニアが出張で不在だったため予算の詳細が期間中に決まらなかった。この予算はあくまで現段階での市と FIWC の予算であってこれから多少の変動がある。村の予算が組めないことは「survey」を参照。

○詳細●

人口	725 人	集落	7 つ	カラヒ	有り(防波堤)
主な問題点	下記の写真にある道が、大雨が降ると通行出来なくなる				
ワーク詳細	ワーク期間は約 3 週間 降雨時でも歩行者とバイク(ハバルハバル)が通行出来る(完成予想写真のような)橋を建設する				
予算	村: 0P 市: 10 万 P FIWC: 10 万 P 合計: 20 万 P				
備考	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 電気水道に関しては何件か問題あるがそれ以外に支障はない ➤ サンドニシオよりは裕福であるが貧しい村の 1 つである ➤ 10 月の選挙にて三選禁止のため村長(カピタン)が交代する ➤ 大雨時には、この道が浸水し通行が危険なため、小学校の授業が中断してまでも生徒らが帰宅させられる ➤ この道は、カンソソの他にもサンドニシオ・マサバの人にも利用する 				

○ワーク内容● (フットブリッジ 18m)

今回のワークでは、次項の完成予想図と同様のフットブリッジを建設予定である。当初は、手すりを造る予定ではなかったが、それは危険であると判断したため予算は高くなってしまいが建設することになった。

※橋の土台となる支柱は、建設中に危険を伴う恐れがあり尚且つ FIWC が滞在している間にワークがスムーズに出来ないということで、事前に支柱を建設することになった。



完成予想図(サンセバスチャン村)

【予算の内訳】

・ FIWC

資材・ツール代	100,000P
感謝料+予備費	25,000P

資材・ツール代の 100,000P の他、ロクロクさんへの感謝料+予備費の 25,000P を予算として、FIWC の全予算は 125,000P となった。

・ 市

資材代	100,000P
-----	----------

・ 村

現段階で予算を組むことはできない。しかし、来年の予算をワーク中のバヤニハンと FIWC の昼食代の予算にあてることができ、予算は約 500,000P。

資材代・・・・・・・・152,000P

補足

・前頁で述べた通り、ワークの詳細や予算の内訳を決める際に、ロクロクさんが信頼している市のエンジニアが一週間の出張で不在であったため私たちがマタグオブ市に滞在している間に詳細を決めることができなかった。現段階の資材代の予算はもう一人いる市のエンジニアによって見積もられたものであるため、変更の可能性がある。日本でロクロクさんと連絡を取り合って詳細を決定していくことにした。

・過去に資材代を同じにして問題になったことがあるため資材は、FIWC と市で違うものを買うことにした。



8. ワーク地決定経緯

まず今回の下見でマタグオブ市だけでなく**ビラバ市**に行くかどうか日本で事前に話し合った。話し合いの末に、今年はまだマタグオブ市に残ることに決めた。その理由として、

- ・まだワークをしなければならい村があるはずだから中途半端にしたくない
 - ・一度ビラバ市へ移動するとマタグオブ市に戻りづらい
 - ・過去に何度か下見をしておりもし survey に行くとビラバ市の村人に期待させてしまう
 - ・今まで OB,OG が長年築き上げてきた信頼関係を大切にしたい
- である。ワーク地決定までの経緯は以下の通りである。

① Survey した 11 の村のうち resurvey する村を決定

まずカンソソ・サンビセンテ・リバーサイド・サンセバスチャンが候補に挙がった。

その後でカンソソとサンビセンテを resurvey することに決定。

※ **リバーサイド・サンセバスチャンの判断については「その他の調査した村」参照**

② 2 つの村を resurvey

当初はその村に行き resurvey をする予定だったが、【resurvey するとさらに balan さんが期待してしまう・ダディとロクロクさんがマタグオブ市で生活をしているため村に対して申し訳ない気持ちになる・resurvey した村の間で対立が起きてしまう恐れがある】などの理由で村に訪問はしないことにした。その代わりにロクロクさんやダディからその村の状況や問題の情報を得て、それでも情報が不十分な場合村に訪問することにした。

→2 人から得た情報で十分であったため、村に resurvey はしなかった

③ ワーク地決定

主に「メリットの幅」・「将来性」の 2 つの柱の観点からワーク地を決定した。

●サンビセンテ(高校建設)

「メリットの幅」△…今年サンビセンテの小学校を卒業する生徒 40 人のうちの約半数が来年度から学校に通えるが、全人口に対して利益を得る人の割合が少ない。

「将来性」△…高校が建設されることで子供たちの将来が大きく変化することや将来的に子供たちに教育という大きな利益を与えることは事実ではあるが、最後までワークに携わることができないので確実に高校が建設されるか分からない。

※高校建設は一部の人間にしか利益が出ず、それによりバヤニハンが集まるのか、高校

建設といっても一部しか造れない、予算が大きすぎるなどの問題が挙がった。

●カンソソ(フットブリッジ)

「メリットの幅」○…カンソソの人だけでなくその他の村人に影響を与え、かつ洪水時に避難手段として使用できる。フットブリッジは日常でも使用できる。雨の日に子供たちが学校に行けるようになる。

「将来性」○…村人の命を考えると十分将来性はある。そして、フットブリッジは1か月で建設でき、なおかつ長く使用でき壊れにくいなど耐久性に優れている。

※多少の雨でも氾濫するため緊急性もあり、ワークの予算も可能な範囲内である。



以上から、サンビセンテとカンソソを比較すると、カンソソの方が適していると言える。よって、次回のワーク地を**カンソソ**に決定した。

※補足

昨年までカンソソには政治的な問題があるとされていたが、今回の下見でその点に十分に注意しながら survey をした。以前、バランガイの役員の中に対立があった(カピタン派・反カピタン派)。しかし、現在、その反カピタン派の役員は辞任しており、実質カピタン派で役員が構成されている状態である。また、10月にバランガイの選挙があり、現在のカピタンは今年で任期が終わってしまったためカピタンに再選することができない。次のバランガイの役員がどうなるかまだ分からないが、それに関してはどこの村にでも言える。→よって今現在政治的な問題はカンソソにはないと分かった。



9. その他の調査地

今回 survey した村は合計 11 個に及んだ。以下は調査した村を訪れた順に記載した。カンソソ(ワーク地結締経緯参照)、マンサハオン、サントロサリオ(別のページ参照)、サンタローサ、カンデラリア、マンサリップ、ナオライアン、サンビセンテ、サンマルセリーノ、サンセバスチャン、リバーサイド(全てマタグオブ市内)。

<マンサハオン>

人口	2700 人	集落	3 つ	カラヒ	なし
主な問題点	バスケットコートが周囲より低いので、降雨時にそこに水が溜まり引くまで使用する事が出来ない。尚且つそこには電気がない。				
ワーク	バスケットコートの底上げ&修復				
ワーク詳細	<p>ワーク期間は約 3 週間</p> <p>①バスケットコート底上げのための土台作り</p> <p>②バスケットコート周囲の修復・整備(ステージ・バスケットゴール・ベンチ・フェンスの設置、照明つける)</p> <p>③バスケットコートのコンクリーティング</p> <p>①～③を、市(ムニシパル)・村・FIWC 合同で作業する</p> <p>③の合計金額は 141,750P</p> <p>①～③の合計見積もり金額は 45 万 P</p>				
予算	<p>村:15 万 P 市:15 万 P FIWC:10 万 P</p> <p>合計:40 万 P</p>				
備考	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 電気水道に関してはこのバスケットコートを除き問題がない ➢ 過去 2 回ワークを行っている ➢ 上記のため FIWC を非常に歓迎してくれた ➢ ここで 1 度子供が感電している ➢ 貧富の差が激しい ➢ 壊れていた Water system は現在復旧している ➢ このバスケットコートは、村の多くの子供たち(400 人程度)が利用する。またフェスタの時も利用する 				



←問題のバスケットコート

【FIWC の判断】

村の多くの子供たちが集う場所であり「メリットの幅」は大きいと感じられた。しかし、過去 2 回ワークを実施している事、今回ワークを行う事でさらに村が活性化するなどの「将来性」・「結実」が他の村より欠けていたという事、共同でワークを行うことでワークに支障が出る恐れがある事などを考慮してワーク地採用へは至らなかった。

＜サンタローサ＞

人口	2000 人以上	集落	5 つ	カラヒ	有り(学校建設)
主な問題点	水道設備があまり整っていない状況で、標高が低い位置にあるタンクから水を運ぶ必要がある				
ワーク	Water system				
ワーク詳細	ワーク期間 1 ヶ月を超える可能性がある タンクをつくる 水源から 6km に及ぶパイプの設置				
予算	全予算: 100 万 P 以上				
備考	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 電気は問題ないが、水道に問題あり ➤ 比較的貧しそうではなかった ➤ ダディーのいところがある ➤ 家屋が 300 戸以上ある ➤ この Water system は、多くの人が利用する予定 				

*その他の問題点

街灯の設置・・・2km に及ぶ道沿いにはライトが現在なく夜暗いため街灯を建設する。見積もり合計予算は 10～15 万 P。

【FIWC の判断】

今回ワーク地に至らなかった最大の理由は、100 万 P を超えるワーク予算であり、FIWC が関与できる範囲を超えていたためである。

＜カンデラリア＞

人口	1000 人程度	集落	9 つ	カラヒ	有り (ヘルスセンターに 80 万 P)
主な問題点	大雨が降ると旧 BRGY ホール付近が地すべりを起こす危険性がある。				
ワーク	新 BRGY ホールの建設				
ワーク詳細	2012 年 7 月から建設している新 BRGY ホールの屋根以外の部分をつくる				
予算	全予算: 50 万 P (その内政府から 10 万 P&給料 10 万 P であるため プロジェクト予算は 30 万 P)				
備考	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 電気水道に関しては問題なし ➤ 貧しい(そのためバヤニハン(ボランティア)を集めるのが厳しい) ➤ 旧 BRGY ホール近くの学校は既に移転済み ➤ 10 月の選挙終了次第政府に補助金の申請を行う予定 ➤ この新 BRGY ホールは、村人ほぼ全員が利用する 				

【FIWC の判断】

既存の BRGY ホールが十分に活用できていてそこまでの必要性和緊急性を感じなかったためと「将来性」もそこまで高くなかったため、ワーク地決定には至らなかった。

＜マンサリップ＞

人口	1042 人	集落	7 つ	カラヒ	なし
主な問題点	水を貯めるタンクはあり常に満たされている状態だが、晴天時には水源の水量不足と村人による使用量増加のため水不足に陥る。				
ワーク	Water system				
ワーク詳細	3 週間～1 ヶ月 新しい水源から既存のタンクまでの 2.5km のパイプをつなぐ				
予算	全予算 20 万 P				
備考	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 電気は問題なし、水道問題あり ➤ 裕福さには個人差がありそうだった ➤ 現状としてはタンクを持っている。尚且つ 1 つの水源から 2 つのパイプをそれにつないでいる ➤ 他の村と異なり、村自身の予算編成を完了していなかった ➤ この Water system は約 70%(7 つの集落の内 5 つの集落)が利用する 				



<村のバスケットコート>



<村が持つタンク>

【FIWC の判断】

全集落 7 つの内 5 つの集落が利用する事から「メリットの幅」は大きかった。しかしロクロクさんとの話し合いや「将来性」を考慮すると、もし Water system を完成させたとしても、各々の集落の標高の差により供給できる水量に差異が生じる可能性や過去のワークも加味して、Water system が一時的なものとなる可能性が大きかった。そのためワーク地決定には至らなかった。(因みにロクロクさんより、この村の Water system の状況の推移を見守るため来年以降の resurvey を薦められた。)

<ナオライアン>

人口	800 人	集落	4 つ	カラヒ	なし(現時点)
主な問題点	水源からプロパーまでのプラスチック製のパイプを切断して水を不正に利用する人がいるなどのために、パイプが破損している。				
ワーク	Water system				
ワーク詳細	①プラスチック製をスチール製(GI パイプ)に取り替える 水源からの距離 2.5km 分のパイプ全てを取り替える ワーク期間 3 週間以上 ②プラスチック製のパイプを地中深くに埋める&壊した人を捕まえる				
予算	全予算: ①100 万 P 以上 ②不明				
備考	➤ 電気は 1 つの集落に問題があり、水道は問題ある ➤ つないでいるパイプ上にある 4 件の家の持ち主らの許可が現時点においておいていないため、カラヒの申請も①も出来ない状態 ➤ 村と学校の関係は良好 ➤ 学校には水道がない				

	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 村にはタンクが3つある ➤ 訪問時の村全体の印象は良かった ➤ この Water system は、村人の大半が利用する
--	--

*その他の問題点

①小学校のフェンスの設置

現在小学校の周囲には小さい竹でつくられたフェンスがあるが小さく強度が弱い。そのため人や動物が侵入してきて盗難被害に遭っている。解決策として、周囲全体をコンクリーティングする事やフェンスの下部をコンクリートそして上部をワイヤーにする事(双方ともフェンスの高さが身長ほど)が挙げられた。全生徒数は94人で全教師数は5人(内1人はダディ一の姪っ子)。



【FIWC の判断】

いずれのワークに関しても地主の許可がいるなど様々な障壁があったため、ロクロクさんの提案もあり以後の推移を見守る方針にした。よってワーク地にはならなかった。

<サンビセンテ>

人口	2000人	集落	6つ	カラヒ	なし
主な問題点	この村には高校がなくマタグオブの高校に50P/日(昼食代+交通費 各25P)かけて通学している。しかし降雨時には通学路が通れなくなるため学校に通えなくなる				
ワーク	High school の建設				
ワーク詳細	ワーク期間は1ヶ月 来年入学予定の40人の学生が勉学できる校舎を1つ2014年6月までに建設する。尚将来的には2つの校舎を建設する予定である				
予算	約70万P/校舎				
備考	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 電気水道に関しては問題なし ➤ 全生徒数(幼稚園生&小学生)500人 ➤ カピタンが元ムニシパルの police ➤ 村役員の中にマミーのいとこがいる 				

	<ul style="list-style-type: none"> ➤ BRGY ホールとヘルスセンターがきれいだった ➤ コングレスからの資金援助よりロード問題は解決している ➤ プロパーは裕福そうで他の集落はそれには見劣るようであった ➤ この高校は、主に毎年 40 人の学生が利用する
--	--

【FIWC の判断】

このサンビセンテは最後の最後までワーク地候補に残っていた村の 1 つであった。あらゆる可能性を秘めた子供たちが学校に通うことが出来るように高校建設をするというのは「将来性」の観点からみて適しているように思えた。しかしワーク地となったカンソソと比較した時に、ワークによりもたらされる「メリットの幅」が少なかった。よってワーク地にはならなかった。

＜サンマルセリーノ＞

人口	829 人	集落	4 つ	カラヒ	なし
主な問題点	現在降雨の時のみにより泥水が水源の水と混合することで水が汚れてしまっている。その際は各家庭で持っている水を使用する事になる。				
ワーク	Water system (浄水)				
ワーク詳細	水源近くでの耕作するのをやめるよう交渉する・フェンスをつくる 交渉が決裂したら裁判にかける				
予算	不明				
備考	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 電気は 2 つの集落に問題あり、1 つは改善中である。水道は問題なし ➤ 裕福さはサンドニシオと同じくらい ➤ 水源を 2 つ所持している ➤ ロードのコンクリーティングはカラヒを申請して行う予定 ➤ ヘルスセンターの問題は解決済み ➤ この Water system は村人全員が利用する 				

【FIWC の判断】

この村には既に Water system が存在している事、降雨時のみ汚水になる事や裁判などの法的処置までは介入できない事などを考慮して、ワーク地決定には至らなかった。

＜サンセバスチャン＞

人口	960 人	集落	3 つ	カラヒ	有り
主な問題点	下の右の写真の太線の部位が通りにくいいため、迂回しなければならない。				
ワーク	小道のコンクリート舗装&橋建設				
ワーク詳細	全長 150m ①150m のコンクリート舗装 ワーク期間は1ヶ月 ②75m のコンクリート舗装&75m の橋建設 ワーク期間1ヶ月を超える可能性あり				
予算	村:8.5 万 P 市:不明 FIWC:10 万 P 合計 18.5 万 P				
備考	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 電気水道に関しては問題なし ➢ サンドニシオより裕福である ➢ ハウスプロジェクトをしている ➢ カラヒにより 316m、 कांग्रेस(国からの助成金)により 345mの道のコンクリート舗装が既に終了している ➢ 政府からの援助により surfacing を行っている ➢ DSaD にも 600 万の資金援助申請をしているが未定(援助を受け次第ブラクまでの道のコンクリート舗装を行う)(10 万 P で 70m) ➢ 過去に 2 回ワークをしている ➢ 小道は、30%の村人が利用している 				



問題の小道がある場所



サンセバスチャン全体図

【FIWC の判断】

「メリットの幅」も「将来性」も他より秀でるほどではなかった事や自ら予算があり様々な資金援助を活用していて意欲も見えた事から介入する必要はないと考え、ワーク地にはならなかった。

<リバーサイド>

人口	800 人	集落	2 つ	カラヒ	なし
主な問題点	洪水により土台となるコンクリートの部分が削られていて渡るのに非常に危なく、また橋の一部の竹の箇所が度々壊される。				
ワーク	橋の修復				
ワーク詳細	ワーク期間 3 週間 竹の箇所をコンクリート舗装するか Footbridge にする 洪水により削られた部位に支柱をつくり土台を強化する				
予算	不明				
備考	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 電気水道に関しては、問題なし ➢ 裕福さは標準的に思えた ➢ 2013 年の予算が若干残っているので充てる事が出来る ➢ ダディーの住んでいる村がリバーサイドである ➢ 橋の竹の部分は滑るので非常に危険である ➢ 手すりが半分ない ➢ この橋は、50%(全集落 2 つの内 1 つの集落)が利用する 				

【FIWC の判断】

この橋の修復のワークを行えば「将来性」も「メリットの幅」も高いレベルで満足できそうであった。しかしワーク中の身の安全と今度の選挙に出馬するかもしれないというダディーの住む家のある村でのワークは政治的に中立の立場で無くなる危険性が大いにあるという事を考慮して、ワーク地には至らなかった。



問題の竹で作った橋→

10. Evaluation

■Evaluation とは？

前回のワーク地を再訪し、前回行ったワークの状況を評価するもの。今回の下見キャンプでは前回のワーク地であるサンドニシオ村で行った。

■2013 年度のワーク

【概要】

場所：フィリピン共和国マタグオブ市サンドニシオ村

内容：River road Concreting(川の中の道のコンクリート舗装)

期間：2013年2月26日～3月12日、14日

参加者：FIWC九州(16人)、現地エンジニア、村人(多数)



【ワーク内容】

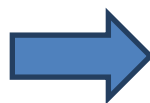
川にコンクリートを敷いて車やバイクが通りやすい道を作る

問題点

村から市の中心地へ行く時に通る川には橋が無いため、車やバイクは川の中を通ることになる。川の中は凸凹が激しく、そのすぐ横は滝になっているため雨天時などは非常に危険である。また水に浸るため、服が濡れたりバイクが壊れたりすることもある。歩行者用の橋はあるが、現在手すりが壊れており通行には危険が伴う。

FIWC九州が行ったワーク

- ・ 木材で橋の形を作る
- ・ 土壌で川の流れを変える
- ・ バールを敷いてワイヤーで固定する
- ・ コンクリートを敷く
- ・ 滑り止めを描く



■ワーク後の状況

- ・車やバイクがスムーズに通れるようになっていた。
- ・雨の日も以前よりも通りやすくなっていた。
- ・メンテナンスはされており、雨の後などは村役員を中心に随時掃除している。
- ・現在マサバ村でカラヒでのワークが行われており、終わり次第サンドニシオ村で道のコンクリート舗装のワークが始まる。援助金は100万ペソで400m道を舗装ができる。

■Evaluation 結果

(1)FIWC 九州のワークについて

1. **ワークを行った道をどう思いますか？** (回答者 35 人)

good:35 人 not change:0 人 bad:0 人

2. **バイクタクシーの料金は安くなりましたか？** (回答者 36 人)

yes:13 人 no:23 人

行き P20 帰り P30

★現在ガソリンが値上がりしているが、バイクタクシーの料金は変わっていないので実質的に安くなっている。

3. **FIWC 九州が帰国した後、メンテナンスはしましたか？**

この質問に関しては、BRGY 役員が月に一度行っているとのこと。また、大雨などの時はその都度、メンテナンスを行っている。

4. **これからも道の状況を保つことができますか？** (回答者 36 人)

yes : 36 人 no : 0 人

5. **ワーク後、何か変化はありましたか？**

- ・歩きやすくなった
- ・マーケットに行きやすくなった
- ・バイクが転倒することがなくなったので、道を使いやすくなった
- ・足が濡れなくなった
- ・子供の安全性が高まった
- ・運搬しやすくなった

- ・村人たちを助けた
- ・滑りにくくなった

6. **雨の日は通りやすくなりましたか?** (回答者 34 人)

yes : 33 人 no : 1 人

道が水に浸らない程度の時は使いやすい(1 人)

7. **FIWC 九州が帰国した後、何か道に問題がありましたか?** (回答者 33 人)

yes : 3 人 no : 30 人

- その内容は?
- ・川が氾濫する
 - ・雨の後に道が汚れるので掃除しなければいけない

8. **他に FIWC 九州に改善できる問題がありますか?**

yes : 16 人 no : 15 人

その内容は?

- ・カラヒで 400m道の舗装がされるが、それ以外の舗装をやってほしい
- ・道の状態を維持してほしい。
- ・water system を改善してほしい(坂道の上の 11 軒の家に水道システムの問題があり、わざわざ水を汲みに行っている。ホースを大きくすれば改善されるが村役員が問題視していないので予算がおりない現状)。

(2)FIWC 九州の滞在について

1. **FIWC メンバーの滞在を楽しんでくれましたか?** (回答者 36 人)

yes : 36 人 no : 0 人

2. **FWC メンバーの行動に苛立ったことはありますか?** (回答者 36 人)

yes : 0 人 no : 36 人

3. **FIWC メンバーはフィリピンの文化を理解、尊重していましたか?** (回答者 36 人)

yes : 36 人 no : 0 人

4. **FIWC メンバーと行ったもので楽しかったものは何ですか？**

- ・ Japanese Festival : 15 人
- ・ ワーク : 3 人
- ・ ホームステイ : 4 人
- ・ 全部 : 14 人

5. **ホームステイについてどう思いますか？**

happy : 9 人 enjoy : 1 人 comfortable : 1 人 good : 1 人

6. **料理を作るのは大変だったか？**

yes : 0 人 no : 10 人

～総括～

多くの人が道を使いやすくなったと答え、雨の日も通りやすくなっている。特にバイクタクシーが道を利用しやすくなったことで村人に多くの利益が生まれている。また歩行者も通れるようになったので、子供の安全性が高まった。メンテナンスは村役員を中心に定期的に行っており、今後も道の状態が維持されることが期待できそうだ。

多くの村人が FIWC 九州の滞在を楽しんでくれたが、夜騒がしくなかったか尋ねたところ、「騒がしかったが村人も騒がしかったので問題はない」との回答だった。しかし実際に私たちが滞在したことでいつもより騒がしくなったのは事実である。この evaluation での反省を次回からのキャンプに生かしていきたい。この下見キャンプでサンドニシオ村を訪れた時、多くの村人が私たちを歓迎してくれた。それだけ村人たちにとって本キャンプがよい思い出になったようだ。



1 1. 生活状況

●衣

フィリピンは雨季と乾季2つの季節が存在し、常夏の国であるため最高気温が30℃を越える日がほとんどであり、Tシャツ、半ズボン、クロックスなどラフな格好で生活していた。ただし、朝晩に冷え込むこともあるので長袖のパーカーなど羽織るものが必要。

熱中症防止のため帽子は必須。また、たいていの衣類は現地でも安価で購入可能である。例年、日焼け防止のためアームカバーやスポーツ用のアンダーウェアを着たり、半ズボンの下にレギンスを履いたりするキャンパーもいるが、今回は男子が多かったためこれらを着るキャンパーは少なかった。



●食

フィリピン料理は鶏肉、豚肉、野菜、魚を醤油や、塩などで味付けしたものが中心で、日本人の味覚に合うものが多い。主食は米で自分の皿に料理を取り分けてフォークやスプーンを使って食べるのが一般的である。お祝い事がある日は豚やヤギの丸焼きがでる。飲み物は水や炭酸飲料、コーヒーなどを飲んでいて、生水を飲むとお腹を壊す可能性があるため、必ずミネラルウォーター飲むようにしていた。



●住

Survey 中はリバーサイド村にあるダディー・ドドンとマミー・サニーの家に宿泊させてもらった。ベッドや長椅子、または床にござを敷いて寝た。カンソソ村、サンドニシオ村滞在中はバラングイホールという公民館を借りて、床にござを敷いて寝た。



●風呂

日本のような湯船につかる風呂はフィリピンにはなく、ポリバケツやタンクに溜めてある水を手桶ですくって水浴びをする。現地でこれを「リーゴ」という。共用の洗濯場など屋外でリーゴをすることもある。その場合は服を着たまま行く。夜に水を浴びると体が冷えて風邪を引くことがあるので主に朝か昼に行く。シャンプーなどはオルモックでも安く購入することができる。



●洗濯

洗濯機はないので洗濯はすべて手洗いをす。タライに水を溜め、粉末洗剤で汚れを落とす。日本人は手洗いに慣れてないため時間がかかり、汚れが落ちない。干すときは家の周りのロープ、竿、柵などに干していた。ハンガーやタライはマーケットで購入できる。当番制にして、全員分をまとめて洗っていた。



●トイレ

便座がなく、低くて小さい便器のような形のものが主流。用をたした後はポリバケツに溜めた水を手ですくって流す様式。紙は流せないため、ゴミ袋を持っていきごみとして捨てていた。うまく流しきれずに詰まることもあるので要注意！



●買い物

カンソソ村にはサリサリと呼ばれる小さなお店があり、そこでお菓子や飲み物などちょっとした買い物をすることができた。

また、村から「ハバルハバル」と呼ばれるバイクタクシーで10分ぐらいのところにもタグオブ市のマーケットがあり、そこでは食料品や衣類など生活に必要なものを手に入れることができた。更に、マーケット

から車で1時間ほどのところにあるオルモックという港町には、大きなスーパーや換金所があり、タグオブではできない買い物や、円からペソに換金することができる。



●交通

Surveyなどで近距離を移動するときは「ハバルハバル」と呼ばれる中型バイクや「トライシクル」というバイクに屋根付きサイドカーを付けたような乗り物に3~4人乗って移動していた。カンソソ村やサンドニシオ村など市の中心部から遠い村から移動する場合は「モルティカブ」と呼ばれる軽トラックの荷台に乗って移動することが多かった。オルモックなど遠くへ行く場合にはタグオブのターミナルから出るバスを利用した。その他、空港からセブ港はバン又はタクシー、セブ島からレイテ島間はフェリーで移動した。バン、タクシーは高額な運賃を申し込んでくることもあるので値段交渉はしっかり行い、乗る前には料金を確かめる。また、降りるときは忘れ物がないかどうかきちんと確認し、もしもの場合に連絡を取るためにできるだけタクシーのナンバーは控えておく。



12. 各係報告

(1) 会計

[仕事内容]

- ・ 金銭の徴収・管理・換金・毎日の収支記帳

[料金の目安]

* 宿泊費

シランガンホテル(セブ島)※エアコン付き
ダブルベッド1375P/部屋(6人)

* 交通費

- ・ 船

セブ島→オルモック (ウィーサム) 550P/人

オルモック→セブ島 (スーパーキャット) 750P/人

- ・ バン

シランガン→船乗り場 900P/台

船乗り場→SM 300P/台

SM→空港 500P/台

- ・ バス

サントロサリオ→シマンガン 280P/台

シマンガン→マーケット 280P/台

- ・ ハバルハバル

ダディ宅→サンドニシオ 400P/台

ダディ宅→サントロサリオ 140P/台

- ・ その他

空港税 550P/人

ガソリン代 240P

*レート10000円(オルモック)

→4450P



<おおよその旅費>

航空券	63,905
保険料	5,000
生活費	15,000
個人費	10,000
キャンプ参加費	1,000
	94,905(円)

[滞在中の収支]

*支出

	内訳	費用
宿泊費	シランガン	1375 P
食費	水	630 P
	食費	4680 P
	小計	5310 P
携帯	ロード	1170 P
交通費	船	7800 P
	バン	4100 P
	バス	560 P
	トライシクル	500 P
	ハバルハバル	4180 P
	その他	450 P
	小計	17590 P
生活費	雑費	874 P
感謝料	ロクロクさん	6000 P
	ダディー	2000 P
	小計	8000 P
その他	ガソリン	240 P
	ガス代	500 P
	小計	740 P
	合計	35059 P

*収入

繰越金	2486 P
生活費	39650 P
合計	42136 P

●全体の収支

$$42136 P - 35059 P = 7077 P$$



[反省]

- ・溜めこまずにその日に使った分のお金を計算できていたのでずれることがなかった。
- ・買い出しに行った人たちがこまめにメモを取ってくれていたので整理しやすかった。
- ・最初財布を分けずに生活費を全部を持ち歩いていたので使う分だけ分けるべきだった。

(2) KP (kitchen police)

【主な仕事内容】

- 現地での生活が円滑にいくようにサポートする
 1. 洗濯(ラバ)、皿洗いのシフト表作成
 2. 生活用品(ハンガー、桶など)の管理
 3. 水(トイレの水・飲料水)の管理



1. シフト表作成

→渡航前に、洗濯3人&皿洗い2人・休み(補佐)1人となる全日程分のシフトを作成した。その際、定期的に休みがくる事と均等に他のメンバーと関わる事に留意した。

(反省点)

● 日程の都合によりシフト表通りにいかなかった事

⇒事前のスケジュール表などを加味して担当メンバーを決めるべきであった

2. 生活用品管理

[国内にて]

→トイレトペーパー2ロールとビニール袋10枚程度を持参するよう呼びかけた。

[現地にて]

	桶	食器用洗剤	洗濯用洗剤	トイレ用ブラシ	手桶	ハンガー
到着直後	1つ	×	×	×	×	×
購入品	1つ	1つ	1袋	1つ	1つ	12本
帰国前	2つ	使い切った	僅か	1つ	1つ	12本
備考	**	スポンジが入っていた	**	**	**	**

**・・・これらは、ダディの親戚の家に保管してもらっている。

(反省点)

- 紛失物が生じなかった
- トイレトペーパーの消費量が多かった

⇒個数や使用状況を定期的に確認する

3. 水の管理

トイレの水は、水洗ではなく手桶を用いて自ら流さないといけないため、常にポリバケツに溜めておく必要がある。水が不足したら適宜補充する。

飲料水は、現地の水道水を日本人が飲むとお腹を下す恐れがあるため、各自のミネラルウォーターと大きいタンク 2つを購入した。また 2本のタンクの内片方が空になり次第マーケットまで買出しに行った。



(反省点)

- トイレに蛇口がついている所が多かったためトイレの水の補充が少なかった。
- 事前にろうとを購入していったので、各自のペットボトルに注ぎやすかった。



(3) イベント

新キャンプ地、カンソソ村に滞在中、村人との交流のためにミニ Japanese Festival を開催した。バスケットコートに村人を集め、一緒に大縄跳びをした後、事前に作っておいた白玉を来てくれた人に配った。



<大縄跳び>

最初に村の子供たちを5つのグループに分けて、1チーム3回ずつ挑戦してその中で最も多く跳べた回数を競い合った。その後は周りで見えていた青年などにも参加してもらった。



・反省

× 参加してもらおうような色々な世代の人に誘ってはみたが、拒む人が多く一部の人々としかできなかった。

◎ 参加せず周りで見えていた人もみんな大縄に注目して一緒に楽しんでくれた。

◎ この時使っていた縄跳びを、イベント終了後も子供たちが遊んでくれていた。



<白玉>

Festival 開始前に、持ってきた材料で火などをお借りして白玉を作り、きな粉やこしあんなどいくつか違う味つけをして村人に配った。

・反省

◎ 味はどうか聞くと、みんな美味しいと言ってくれた。

× 材料の保管が不十分で、袋がアリに噛まれ穴が空いているものが一部あった。



思っていたよりも人が集まり、FIWC の存在は理解してもらえたのではないかと思います。しかし、まだまだ村人の日本人に対する不信感はあるように見えたので、次の本キャンプでどのように人々と交流して信頼関係を築けるかが課題となってくるだろう。

13. 他己紹介

せーじゅ

我らがリーダー工藤星授。おっとりした性格で数々のお姉さまを落としてきた星授。愛称・星ちゃん。何事にも動じない星ちゃん。ある時は、公衆の面前で質問攻めを受けたり、またある時は、ディスコで村のお姉さんに振り回されたりとたくさん身体を張ってくれた!!!何より頼りない自分たちを最後まで引っ張ってくれて、そして無事に村も決まり、無事に下見を終えたのは星授のお陰や。ありがと!!!そして本キャンプもよろしく!!!

from 隼也



隼也

しゅんやは、長身で爽やかイケメンのワークリーダー！survey中いつもロクロクさんとキャンパー間の意思疎通をはかってくれたり、他の人が休んでいる間もせーじゅと一緒にロクロクさんとミーティングをしてくれました。疲れているはずなのにキャンパーという時だけでなく現地の人たちという時もいつも場を盛り上げてくれました。だからしゅんやはサンドニシオ&カンソソで大人気！！そんなしゅんやですが、お酒には滅法弱い！信じられないくらい弱い！！笑 トウバ 5 杯ですぐパタイ・・・でもこれでも強くなったんですって笑 本キャンは下見以上に大変やと思うけどワークリーダー！期待してます！！

from ゆーすけ



ぐっさん

幼女大好きぐっさん。今回のキャンプもひたすら追っかけまわしてたね。学校で小さい子どもと遊んで、「俺の好きな幼女集めてみた」と言ったときには心からひきました。しかしギターが上手で、引いている姿はジョンレノンよりかっこいい。やっぱりかっこいいという評判があらこちらで聞こえ、本キャンプではダグハンウヤブの予感。だけど三角関係とか問題起こさないように注意してね(笑)

from せーじゅ



みさき

その可愛い笑顔と人柄でどれだけのフィリピンの男達を落としてきたか分からない陣内美咲！！でも、その笑顔の裏には何を考えているのか分からない陣内美咲！！そのため、本キャンでブラックミーたんという異名までいただいた陣内美咲！！そんな印象を持ったまま下見キャンプでみさきと生活していく中でその印象はなくなったよー♪♪本キャンのときは少食で体をよく崩すみさきでいろいろと心配したけど、下見キャンプでは女の子1人の中、誰よりも食べて誰よりも元気で周りのことを気づかってくれて可愛さの中にたくましさを含み備えた陣内美咲！！これからまだまだ食べて外で遊んで黒くなったらもっとフィリピン人にモテると思うよ、陣内美咲！！！！ from あきお



あきお

自称 City Boy、あきお。あきおの人気は新キャンブ地でも健在やったな。いつの間にか浸透していたオカマキャラと得意の変顔で村人をいつも笑わせていました。個人的にはワンサワンサがツボだったよ。

(笑) そんな彼ですが、会計係として毎晩一人で生活費の計算をしている姿。まさかギャップ萌えするわけないやろ…いや したわ。(笑) あきおがいた下見キャンプはほんと楽しかった♪本キャンでも一緒盛り上げていこうね！ from ぐっさん

期待の新キャンパーゆーすけ！冷静な判断力と“女子力”はNo.1！彼女の数もNo.1！モテモテでした。そして一見おとなしそうな彼がやるニワトリのものまねのクオリティーは本物以上♪フィリピンでサッカーを広めようと日本からサッカーボールを持って行って、サッカーの普及を頑張りました。お酒の飲めないキャンパーの分までポリポリ(交代)して飲んでくれたり、部屋に入る時は必ずノックしてくれたり・・・とっても優しく男前なゆーすけ。本キャンでも頼りにしているよ！

from みさき



1 4 . 感想

【せーじゅ】

今回の下見キャンプは、前回の本キャンプとはまるっきり違っていた。本キャンプはすでに村もワークも決まっっていて、村人と楽しく過ごすだけで何も考えず、ただ感じるばかりであった。しかし下見キャンプは、その村、そのワークを決めることが目的で多くの村を回り、キャンプ全体について考えなければならなかった。

今回、キャンプに行く前に、ここ数年問題になっているビラバ市への移動について皆で話し合った。マタグオブ市にはまだ自分たちにできることが残っているかもしれない。それをそのままにしてビラバ市に移動なんてできない。そんな気持ちから今年もマタグオブ市でプロジェクトをすることを決めた。キャンプ中、何百万ペソもの大規模なプロジェクトから、数万ペソのもの、また、裁判にまで介入しなければならないようなプロジェクトも見えてきた。そんな中、カンソソのフットブリッジを作るというプロジェクトが、自分たちがマタグオブ市ですべきことだと思った。大規模なプロジェクトは、一部は FI が介入できるかもしれないが、自分たちが一部分を手伝ったからといって全て完成するとは限らないし、プロジェクトが中止になってしまったときに、大規模なプロジェクトなだけに村に対して責任が取れない。それに誰がカンソソのフットブリッジを作るのだろう。村には到底できないプロジェクトであるし、大規模なプロジェクトをするようなたくさんの資金を持っている機関にとっては、小さすぎて見向きもしないと思う。実際に、カンソソのフットブリッジは2年前に市が造ることを約束したが現在もそのままである。だから、このフットブリッジは自分たちが造らないとずっと実現しないままであると思った。自分たちにしかできないことだと思った。この自分たちにしかできないプロジェクトがあることを知って、マタグオブ市での自分たち FI の存在意義を感じる事ができた。また、Servey 中にある村のおじさんから、毎年 FI はマタグオブに来て人々を助けてくれると感謝された。この人の話を聞いたとき、市の移動どうこうの前にフィリピンキャンプそのものの大切さも実感することができた。自分たちの活動はただの自己満足で終わっているのではなく、ちゃんとフィリピンの人のためになっていると。フィリピンキャンプにはいくつか課題があるが、ひとつは答えが見つかったと思う。



下見キャンプを終えて、やはりフィリピンキャンプは人と人とのつながりが魅力的だと思った。前のキャンプ地に帰った時、日本との距離が遠い分、再会できた時の喜びは本当に大きかった。少しでも一緒にいたくてサンドニシオに滞在する最後の日、大雨の中一緒にバスケットをした。こんなにも一緒にいたかったのは、やっぱりサンドニシオの皆が自分にとって大切な人だったからだと思う。国は違っても、言葉が通じなくても、確かな絆がそこにはあって、大雨のせいで帰る時間が遅くなってしまったけれど、自分たちのまだ村に残りたい気持ちが天に通じたのかもしれない(笑)。だけど本当にそう思う。今回、前回のキャンプ地を訪れたことで、自分がフィリピンキャンプにもう一度行こうと思った理由を再確認することができた。それは、国を超えた人と人とのつながりに魅了されたからだ。一緒にワークして、話して、お酒飲んだりして一日中同じ時間を過ごすことで、村人が自分にとって大切な存在になったのだと思う。本当に家族のようだった。次のキャンプ地でも、そんなキャンプがしたい。前回のキャンプ地に帰ることで、次のキャンプに対するやる気も俄然わいてきた。カンソソでも、村人と心がつながるような関係を作りたい。また、皆がそんな関係を築けるように全力でサポートしたい。エンジニアのロクロクさんを始め、ダディーやマミーにも大変お世話になり、彼らの助けがなければ絶対に下見キャンプは上手くいかなかったと思う。本当に自分たちの両親のようだった。下見キャンプ以前はほとんど面識がなかったのに、自分たちが FI だからという理由だけで自分たちの手助けをしてくれた。こんな、今まで FI にかかわってくれた人たちとのつながりを、これからかかわっていく人たちとのつながりを大切にしていきたいと思う。やはり、国を超えた人と人とのつながりが FI のワークキャンプの素晴らしいところだと思う。

ようやく下見が終わり、いよいよ自分たちの本キャンプが始まる。下見が終わって振り返って見ると、自分にとって再確認のキャンプだった。FI がマタグオブ市で活動することの意味、なぜ自分はキャンプをしたいのか、ワークキャンプの魅力。これらの再確認ができたことで、自分にとってカンソソでのキャンプがより意味を持ったものになると思う。他にも反省や課題が見え、これから準備していかなければならない。来年の春、カンソソの人たちと心からつながれるようなキャンプをつくりたい。自分たちの活動がいつか実を結び、カンソソの人たちが自分たちの道は自分たちで切り開いていくような、そんなきっかけを作るキャンプにしたい。最後に国内係の原ちゃんを始め、お見送り・お出迎えをしてくださった先輩方、ロクロクさんへの寄付にご協力してくださった方々、本当にありがとうございました。そして、一緒にキャンプに行った下見メンバーのみんな、ありがとう。これからも頑張っていこうね。

【しゅんや】

「フィリピン人のことを一番に」— 自分たちが今回のキャンプで大切にしていたこと。今回、キャンパー全員下見は初めて。右も左も分からないまま引き継ぎを受け、先代のキャンパー方に下見の話を何度もしてもらい、何度も質問した。自分は今回の下見がこの上なく楽しみだったが、それとは裏腹にすごく不安でもあった。異国の地に行くこと、そしてキャンプを一から創ることが自分にとっては不安で仕方なかった。日本にいるときに自分に何ができるのだろうか。よく自分に問いかけていた。そして思ったのは、自分の不安はキャンパーみんなの不安だということ。だから自分が抱いた不安なことは全て解消してそれをキャンパーに伝えていくことにした。その中で、少しずつキャンパーの間でキャンプに対する温度差が生まれていた。その温度差が無くなったのは下見キャンプ前の国内合宿。そこでそれぞれの想いをぶつけ合った。もっと早くこういう場を造るべきだったと後悔もしたが、それ以上に下見メンバー全員が1つの方向に向かって1つになることができ、下見前にちゃんとキャンパー同士で向き合えたことが何よりよかったと思う。

そして下見キャンプを終えた今、カンソソにワーク地が決まった。このキャンプ地決定には様々な想いがあった。カンソソはいつワーク地になってもいいくらいのワーク内容で設計図まですでに作っていた。それにも関わらず、政治の問題があるとされていたため過去にワーク地には選ばれていなかった。”フィリピン人を一番に”考えるとカンソソのワークはとても適しているのに、政治に関与してはいけないFIは中立の立場でなければいけない。だから、カンソソでワークをすることを許されていなかった。毎年 survey しているのにワーク地にならない。他の村以上にカンソソに期待をさせてしまっているのでは、それならいっそ survey をするべきではないのではないかとも思っていたし、先代のキャンパーからカンソソには政治的に問題があると聞いていて正直カンソソに対して良いイメージを持っていない自分がいた。そしてワーク地を決める際に、今年もまたカンソソを候補に挙げることはできないと思っていた。そんな中で survey をして政治的な問題が今はないと分かった。それが分かってホッとしたが、それと同時に複雑な想いになったのを覚えている。そしてその情報を含め、ワーク地決定をしていった。話し合いの末に候補地として2つの村が挙がったが、そこから1つに決める話し合いに2日かけた。かけるほどの価値はあったと思う。キャンパー全員村決定に妥協はしたくなかった。みんなの疑問が無くなるまで、納得するまで話し合った。いろいろな視点から見て、フィリピン人のことを考え、FIのことも考え、最終的にカンソソに決定した。その後のキャンパーみんなとの円陣は最高に気持ちよかった。まだまだキャンプはこれからだが、この時だけは肩の荷が下りた。

今回の下見は「フィリピン人を一番に」を大切に、常にフィリピン人のことを考えた。村人に期待をさせてしまうこと、そこから生じる問題を自分たちは恐れていた。最前

の策をとれていたとは正直いえない。途中変更もあった。実際、様々な村を survey してどの村でも村人が自分たちを歓迎してくれ、いかに期待をしているのか実感したし、自分たちが訪れることでここまでも村に影響を与えていると思うともっともっとフィリピンのことを考えていかなければいけないなども感じた。しかし、その点ではある程度下見キャンプ前にも分かっていたこと。だから、今回の下見キャンプでは自分に対して何か目的を持って臨まなかった。個人の成長目的でキャンプに参加することが無責任すぎることを思い知らされた第1回下見 MTG。今回の下見で個人の目的を造ってしまったらいけない、どんな目的・目標であれ、自分だけに留めているのならただの自己満足のキャンプになると思った。だから、今回のキャンプでは個人の目的・目標を造らず、自分はフィリピン人を一番に考えて下見を全力で取り組んだ。

しかし、次は本キャンプ。個人としてというより、ワークリーダーとして目的を持って行動をとりたいと思っている。本キャンプも“フィリピン人を一番に”考えて常に行動をとらなければいけないのはもちろんのこと次は新キャンパーも参加する。引っ張る側の人間として責任も持たなければいけない。昨年自分が初めてキャンプに参加して感じた想いを今年の新キャンパーにも同じように感じてほしい。このフィリ



ピンキャンプに参加することが一大決心だった昨年自分。その決断が正しかったとキャンプを終えて思った。フィリピン人との堅い「絆」を感じた前回のキャンプ。そう同じように思ってもらえるようなキャンプを本キャンプでは目指したい！！！！

最後にこの下見キャンプ通して携わった全ての方に感謝を言いたい。下見キャンプ前にたくさん迷惑をかけた先代キャンパーやお見送り・お迎えに来てくれた人たち、キャンプ中に国内係として働いてくれた原ちゃん、スティ中お世話になったダディやマミー、そしてロクロクさん—ありがとうございました。そして、下見キャンパーのみんなありがとう。みんな次もよろしくな！！！！

【みさき】

春の本キャンプに参加した時、このキャンプが最初で最後のキャンプだと思っていた。だから帰国してから下見に参加するか悩んだ。本キャンでは毎日が本当に楽しかったし、日本では経験できないことをやっている新鮮さがあった。しかし、それだけでは物足りなかった。それには二つ理由がある。一つ目は、本キャンプでは準備段階はできていて、ただついていだけだったからだ。どうやってワーク地を決めたのか、予算はどうやって話し合ったのか、他にも沢山疑問があった。話を聞くだけでは不十分で自分で実際参加して知りたいと思った。二つ目は、本キャンプで悔しい思いをしたからだ。私は慣れない異国での生活で体調を崩し、とにかく余裕がなかった。それで周りの人に心配をかけていたのが悔しくてたまらなかった。これが私が下見キャンプに参加しようと思った理由。こうして始まった下見キャンプ。行く前に想像していたよりも実際には何倍も悩んだし迷った。

私が一番印象に残っているのは、サーベード。サーベードではたくさんの村をまわった。多くの村が私達を歓迎してくれた。F Iが過去に行ったワーク地をみる機会がありF Iの歴史を知ることができた。前回のワーク地であるサンドニシオ村を含め、いくつかの村でF Iがワークをしてくれたことを感謝していると言われたのがとにかく嬉しかった。同時にF Iがこのマタグオブ市で期待されていることを感じた。しかしその反面、サーベードに行く多くの村で「ぜひ私たちの村でワークをしてほしい！」と言われ、心苦しかった。多くの村にサーベードに行っても、実際来年ワークを行うのは一つの村だけ。F Iは毎年下見キャンプを行っているがメンバーが変わるので自分にとっては初めてのサーベードである。でも村の立場からすると毎年サーベードには来るが実際にはワークをしてくれないという気持ちになってしまう。だから私たちは村に期待だけさせているという事実があることを忘れてはいけない。

そして最終的にワーク地を決める時、なかなか決まらなかった。私たちの決断によって村に何らかの影響を与えると思うと妥協はできない。夜中まで何時間も話し合っ、それでも決まらず翌日、ようやく決まった時には、メンバー全員が一つにまとまった気がして涙が出そうになった。そして自分たちがこれからやることの大きさを改めて感じ緊張感も増した。



この三週間、とにかくいろいろな問題に直面し考えることが本当に多かった。つらいことも悔しいこともたくさんあって今思い出してもぐっとくることがある。でもそれ以上に毎日が楽しかった。たくさんの人と出会って、人の優しさや温かさに何度も触れた。下見キャンプに参加できて本当に良かったと思う。参加していなかったら私は絶対に後悔していたらろう。サンドニシオ村に行ったとき、村人との再会が嬉しかったし、私たちの訪問を歓迎してくれた。私たちが作った道が実際使われて、プラスの影響を与えているのが嬉しかった。お別れの時はみんな泣いてくれた。本当に最高の人たちだ。

そして新ワーク地であるカンソソ村。まだ五日間しか滞在していないが、私たちを歓迎してくれた。一緒にお酒を飲んだり、子供たちと遊んだり短期間ではあったがよ仲間なれた。カンソソの人たちのことを大好きになった。サンドニシオ村の人たちと最高の関係が築けたように、いやそれ以上に良い関係を築き来年一緒にワークを成功させたいと心から思う。

最後に体調が悪い中、私たちに全面的に協力してくれたロクロクさん、ほぼ初対面にも関わらず私たちを受け入れて家に泊めてくれたダディー、マミーをはじめ、キャンプを支えて下さったすべての人に心から感謝します。本当にありがとうございました。

そして、せーじゅ、しゅんや、ゆーすけ、あっきーら、ぐっち。誰一人として欠けてはいない存在です。本当にありがとう。

これから来年の本キャンプに向けて動き出す。反省点はいくつもある。それを改めて新キャンパーとみんなで作ろう。村人達が笑って、私達も笑ってキャンプを終えられるように最高のキャンプをつくっていこう！

【ぐっさん】

前回の本キャンプに続き2回目のフィリピン。行くことに迷いはなかった。本キャンプで下見キャンパーが心からキャンプの成功を喜ぶ姿を見て、自分も同じように一からキャンプを作って、そこで見えるものを知りたい！と思ったからだ。

実際3週間滞在して今振り返ってみると、悩み、考え抜いた下見キャンプだった。それはフィリピン出発前から始まっていた。どんなキャンプにしたいか？自分たちが来ることを行うことが少しでも現地の人にプラスになってもらいたい、また下見キャンプだけに関しても、次の本キャンプにやってくる新しいキャンパーに不安なくキャンプを楽しんでもらいたい。そんなことを思いながら何度もみんなで話し合っ方向性とテーマを決定した。まだ多少の不安はあったものの、これで順調にキャンプは進んでくれるんじゃないか。一度キャンプを経験してしまっているせいか、そんな甘い考えでキャンプにのぞんでいた、と今振り返ってみると 思うところがある。しかしそれは全く違っていた。

キャンプが始まると、まずは言葉の壁から生じるちょっとしたミス。自分の語学力や知識のなさを痛感した。さらにそこからスケジュールもズレていってなかなか思い通りに進まず…。日本でも想定していたことではあったが、いざ目の前にその問題が出ると、思っていた以上に不安が募った。また実際に survey が始まると、ミーティングをしていくなかで、今まで紙の上でしか見ていなかった数字などが具体的に会話に出てきた。その度に今自分たちがやっていることはとても大きなことなのだという事の重大さ、気を引き締めなければという責任をすごく感じた。いよいよ次の村を決めるという場面でもさまざまな意見の衝突があった。日頃自分はあまり意見を言うタイプではなかったが、今回のキャンプでは頭を絞って発言し、全員の納得が得られるまで話し合った。どれを最優先に考えるべきなのか、最善の方法はないのか。村の子供などと遊んでいる時も、村の人が日本人を受け入れてくれるように下見キャンプの内に交流を深めなきゃ。などと常に考え事をしていて気がする。

そんな悩みに悩んだキャンプ。もちろん喜ばしいこともたくさんあった。なんといっても前回のキャンプ地、サンドニシオの人々との再会。1ヶ月という短い期間で築き上げた彼らとの絆は思っていた以上に深いもので、経験したことのない感動を覚えた。Evaluation では村人に聞いて回ったり、本キャンプで作っ



た道を安全に通れている様子を実際に見ることで、いろんな利益が村人に出ていることを知った。自分のしたことはほんの一部なのかもしれないが、滞在中村人から ‘salamat!’ (ありがとう) という言葉を頂いた時には、少しでも自分は役に立てたんだと思えてとても嬉しかった。自分たちだけが満足するだけでなく、それが村人にも利益が出て喜んでもらえる。こんなに良いことはないと思う。そういう意味でも前回のキャンプは大成功だったんだと改めて感じた。それと同時に、次の本キャンプでも村人に foot bridge という形のあるものだけでなく、日本人との交流から生まれる絆や村人の意識の変化をもたらせるようにこれから頑張っていこうと思った。

いろいろあったが、次のキャンプ地も決まった。カンソソ。村が決まってホッとしていた分、村を訪れた時は少し緊張した。しかしやはりびっくりするのはフィリピン人の歓迎の心だ。サンドニシオいる時と変わらないくらい楽しくて 5 日間はあっという間だった。

来年またここに来れると思うと、帰国してからもずっとワクワクしている。

また、おそらく次でフィリピンキャンプに参加するのは最後になる。FI と出会ったのはたまたまであるが、それを無駄にしないように今から 4 ヶ月、しっかりやっていきたい。そうすればキャンプも成功するんじゃないか。また甘く考えているように見えるが、そのくらいの強い気持ちでかつ責任を持ってやろうと思う。

下見キャンパーのみんな！ やっとスタートラインに立ったね。これからまたたくさん不安なことでもてくると思うけど、一つ一つ解決して最高のキャンプ作ってやりましょ！

そして次の新キャンパーさん！ 自分ぜんぜん頼りないかもしれんけど、全力でサポートするのでも少しでも興味のある人ぜひ参加してください！

【あきお】

2013年春に私は初めてフィリピンキャンプに参加した。そのときの私のキャンプは自分に任せられた仕事をして、村人と毎日楽しく過ごす受け身のキャンプだった気がする。それは、下見キャンパーが夏に survey をして下準備をして環境を整えてくれたからあんなにも楽しくて、充実したキャンプが出来たのだと思う。だから、次は自分たちが下見をして新しい村を決めて次の新キャンパーに自分たちが本キャンプで体験した夢のような時間を経験してもらいたいと思い下見キャンプに参加した。また、下見キャンプに参加してからキャンプを作っていけば本キャンプでは見ることのできなかつた部分も見れるんじゃないかとも思った。でも、それはあくまで私が考えていた理想だった。現実には本キャンプに絶対参加できる保証はなかったし、下見キャンプも私は部活をしていて時期的に参加できるかは微妙だったため、下見キャンプに参加するかかなり悩んだ。いろんな人に相談して、部活の先輩、同期の人たちに説得して行くことを決心した。でも、そのあとからが大変だった。私が全然日程を確保することができなかつたため、他のメンバーにたくさん迷惑をかけた。キャンプに対するモチベーションが上がらなかつたせいもあり、ミーティングに遅刻して行くことも度々あった。ミーティングの時も前回の復習をせずに、ただ話し合いに参加してるだけだったかもしれない。FI と部活との板挟みになって正直キツイ時もあった。そんな状況でキャンプまでの時間が短くなっていく中、国内合宿で最後のミーティングのときみんなの意見を聞いたときにハッ！と気づかされることがあった。それは、「いつまで俺は、部活との両立ができないことを悩んでいるのだから。もう、行くと決めたなら責任を持って下見キャンプを成功させなければならない。」本キャンプに必ずしも行けると決まったわけではないが、そういう風に考えることによりかなり時間がかかったが、キャンプに行く前に気づかせてもらえてよかった。それからは、自分に任せられた仕事はもちろん、周りの状況を把握して今回は特に女子が一人だったため気を配ってサポートして

いこうと思った。まずはじめに下見キャンプをすることに対して疑問を思っていたことがある。それは、下見をする村の人々は日本人が自分の村に来ることにどういう風に思っているのだろうかということであった。私とその立場だったらまず疑いや不安の気持ちしかないと思う。しかし、現地の村人は違った。Surveyに行く村行く村全部が歓迎してくれた。Surveyに行った村全てをワークできるわけではないから、申し訳なさは感じたがそれよりも私が考えていた疑問と実際に現地の人が考えていることがこんなにも違うのかと驚きも覚えた。日本では当たり前かもしれないが向こうでは違う。だから、できる限り現地の人と同じ生活を送って、自分が思っている気持ちは正直に言わないと伝わらないと思い、楽しいものは楽しい嫌なものは嫌だ。と伝えるようにした。お酒もたくさん飲んで、歌って、踊って、それだけでも村人との絆は深まると思う。初めて訪れるカンソソではサンドニシオがかなり楽しかったため少し村人と壁を感じることもあった。でも、何の気を遣うことなく普通に生活しているだけで村人は心を開いてくれる。今回の下見キャンプを通して一番感じたことは、自分たちがしようとしていることは市や村と協力して行うものすごく大きなことでそれを責任をもって成功させなければならない。なによりも、キャンプは人の支えなしでは行えないということ。フィリピンでも日本でも多くの人に協力してもらった。



みんなに感謝の気持ちを伝えなければならない。多くの人の協力のもとで、これまで築いてきた先輩方の伝統は守りながら、自分たちの色も出してキャンプを無事に成功させる。これが下見キャンプに行ったメンバーの使命だと思う。まだはっきり私が本キャンプに行けると決まったわけではないし、これから本キャンプに向けて準備をする段階で

たくさん不安はあるが、星授は天然だけどみんなを引っ張れて、隼也は臭いけど誰よりも考えれて、美咲はブラックだけど周りに気を配れて、ぐっさんは幼女好きだけどみんなを楽しませれて、ゆうすけは city boy だけどいつも真剣のように一人一人ができることをできたらきっとキャンプは成功すると信じている。これからも力合わせて頑張っていこうね！！！！！！

【ゆーすけ】

「より幸せ」について考えられたらいいなー。これが僕のフィリピンキャンプの参加理由である。

survey 中「雨」というのは1つのキーワードであった。カンソソに survey した時も大雨が降ると通学路(次回のワーク場所)が浸水するため、小学校の授業を中止してまでも児童を帰宅させねばならないと聞いた時は衝撃で嘘やろ!と思った。また、サンドニシオ滞



在最終日のお昼頃大雨が降った。バスケットコートで遊んでいた子供たちはステージ上や屋根のある所に移動しボール遊びやおしゃべりしてそれなりには楽しそうではあったが、やはりただの大雨のせいで遊ぶ事にさえ制約を受ける状況に僕はなんとも歯がゆかった。一方日本では、大雨が降ったくらいで教育を受けられなくなる事も遊べなくなる事も基本ないし、あらゆる事象に対して常に多くの選択肢があり、自らがその中から選択する事が出来る(例えばチャリ通の学生は大雨でも電車やバスで通学できるし、面倒であれば行かないという選択も出来る)。フィリピンキャンプのしかも下見キャンプでしか経験できない多くの村を訪問する survey を通して、選ぶことが出来るのはすごく幸せな事なんだと体感した。

前回のワーク地であるサンドニシオ村へ訪れた際、14歳の少女と出会った。合計5日間の滞在中、彼女と追いかけてたりつきあったりしてふざけあう、バスケをする、踊る、冗談を言い合い笑う、話をする、といった何気ない事で時間を過ごしただけだった。それでも最後の夜のディスコの時、「もう会えなくなる」、こう思うだけで涙が溢れ出て止まらなかった。彼女自身も泣いていたにも関わらず、僕から奪っていた(笑)タオルでそっとその涙を拭ってくれた。そして別れの日であった翌日、明らかに別れを惜しんで近づこうともしなかった彼女と話がしたかったため、なんとかして一緒にCRの水を汲みに行ってもらった。バケツに水が溜まるその僅かな間に「mingaw...」と言い涙を流してくれ、今度は僕が先のタオルでその涙を拭い、最後にその互いの感情が染み付いたタオルを remembrance としてあげた。心からつながれたのではないかと思っている。たとえ文化・国籍などが異なろうとも、どの国にも感謝や喜怒哀楽といった共通にもつ感情があるはずでそれさえあれば人はつながれると感じた出来事であった。人がつながればそこには笑いが起こり、楽しいが増えそしてさらに様々な感情をより多く共有できるようになるだろう。この重層も冒頭の

答えの1つなのかなと思う。

この3週間で僕は彼らから数え切れないほど多くのものをもらった。選択出来る事や人とつながる事が「より幸せ」に必要な事を含め色々な考え方を教えてもらった。毎回毎回ホンマ旨いマミーやカピタンのつくるご飯、surveyするどの村でもいつもいつも(こちらがまたか...とってしまうほどの(笑))お菓子とペプシを提供してもらった。一緒に酒を飲み交わしながら騒ぎまくったダディーの息子さんとお別れ会や、ウヤブの事でいつまでもからかってきたり執拗なまでに同じ事を繰り返すがきんちよたちと遊んだ事などのおかげで、常に笑って楽しく充実した毎日を過ごさせてもらった。村人がしてくれた全ての行為が嬉しく楽しく、今でさえも思い出だけで思わずにやけてしまう。だがいつも思っていた、「彼らに何をしてあげただろうか・・・」、そして村人がしてくれた事に比べたら僕がした事なんて微々たるもので無に等しいと。

僕はお互いがハッピーであるのが好きだ。でも現時点では僕だけが楽しみを享受しているに過ぎない。だから僕が彼らから教えてもらった「より幸せ」を具現化してカンソソでフットブリッジのワークを結実させる事を通して、色んな事してくれた村人たちへ恩返しをしたい。橋が完成する事で、大雨が降ろうと多くの方がより好きな時に好きな事を選択出来て、尚且つ学校やマーケットに行ける事などによって人と人がよりつながってもらいたい。そして今以上に活性化してもっと生活が豊かになるような将来が結実してくれたらめっちゃ嬉しい！僕がしてもらって嬉しかったように、彼らにも嬉しいと思えてもらえたらいいな。来年のワークキャンプが終わった後も双方がして良かったと言える、言い続けられるものになる事を期待しつつ来年頑張っていきたい。



フィリピン下見キャンプメンバー

- 工藤 星授 (九州大2年) : リーダー
沖野 隼也 (九州大3年) : ワークリーダー・保健
陣内 美咲 (西南大2年) : 副リーダー・記録
東郷 瑛 (福岡大2年) : 会計
山口 航平 (九州大2年) : イベント
伊藤 悠介 (九州大2年) : KP



FIWC 九州 (代表 : 浦田 菖平)

Mail: fiwcq@hotmail.com

Web: <http://fiwckyushu.web.fc2.com/> (FIWC 九州公式サイト)

Twitter: @fiwckyushu

Blog: <http://fiwcqp.exblog.jp/> (フィリピンキャンプ最新情報)